

豊田市視察研修レポート

いなかとまちのくるま座ミーティング

足助町・旭地区視察研修

2019年2月3日・4日

視察先

おいでん・さんそんセンター

つくラッセル

福蔵寺 シェアハウス

山里カフェ Mui

猪鹿工房 山恵

農家民宿 ちんちゃん亭

株式会社ふるさと企画 村雲和裕

研修報告

今回の研修は、くるま座ミーティングから盛りだくさんの内容と視察先とで内容の濃い視察になりました。

全体を通して感じたことは、やはり「人」の存在が大きく、情熱をもって取り組むキーマンがいること。田舎は田舎らしく、スモール、スローで、そしてシンプルであることがキーワードであること。そして、中間支援センターは、新しい事業への地域への根回し、調整など事業を裏で支えることが重要であることでした。

・いなかとまちのくるま座ミーティング

「暮らしに生かす自然のチカラ」、「馬・動物と共にある暮らし」

「地域のエネルギーは自分たちでツクル」、

「ヘンタイが中山間地農業を救う」

オムニバストックでは、どれも手わざが重要なキーポイントであり、ローカルベンチャーが次世代とつなぐ仕事へと変わっていくのではないかと

分科会 地域のエネルギー問題 石徹白が成功例で学ぶことが多い

バイオマスの将来展望は、地域の集合住宅に導入することで高齢者など地域の人との関りも持てる。目的には「こだわり」、手段には「こだわらない」



・おいでん・さんそんセンター センター長鈴木氏

地区外への広報活動よりも、移住者の活動者と

地域住民の折り合いを上手につなげること。

まさに中間支援をうまくおこなっている



豊田市は合併したが、トヨタ自動車の存在が大きく、移住者も半数は豊田市内からである。

都市の設定をどこにターゲットを絞るか。

運営費の捻出をどうするか

・つくラッセル 福蔵寺 戸田友介氏

戸田氏は、地域づくりのすべてのことに関わり、新しい移住者に、

働く先を新しく作ることで起業につなげている。

新聞店の事業継承で経営基盤 100の仕事

人を中心におくことでいろいろなこと見えてくる

移住者希望者は、先輩移住者がいることで安心でき、ハードルが低くなる

総務省 ふるさとテレワークを活用してシェアオフィスなどを整備している

戸田氏が、地域の信頼を得ていることで、移住者でも地域に溶け込んでいる

福蔵寺は、グレーなシェアハウスで社員寮としている。居住者5名



・山里カフェ Mui オーナー清水潤子

小澤氏に言われハンターになる。ジビエカフェを経営

ランチは予約制 1300円

解体所も新しく400万円の投資で新設 補助金を活用していない

縛りがあるため



あすけ
足助の観光カリスマ 小澤庄一氏同席にてランチ

・猪鹿工房 ^{やまけい} 山恵 担当鈴木良秋

猪・鹿のみ解体して精肉 いい肉になる猪しか取り扱わない

販売について 直販、卸販売、

イベント販売(加工品ウインナー、フランクなど)

課題 30年度から残渣の処理費用が発生し、経営が厳しくなる



・農家民宿 ちんちゃん亭 女将鈴木桂子

事務局長鈴木さんの長男夫婦が経営

自宅離れを 2300 万円かけてイノベーション

家具、寝具、食器などこだわる

客層、子ども連れのママ友、家族等

農家民宿だが、農業体験よりの山で遊ぶ プレパーク、セカンドスクール

女将さんが、キーマン 宣伝はFBのみ

